

COMMORE LIFESTYLE CATALOG #9

Buddy・Garden・Hobby・Scenery・Others

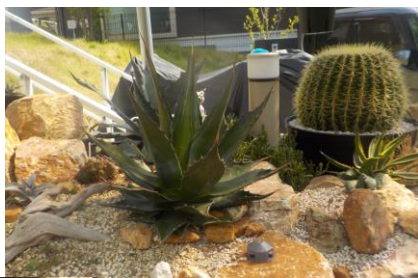
「マザーロードに魅せられて： ルート66に憧れる若いご夫婦が作ったサボテンガーデン」

ルート66というと、年長の方ならNat King Coleの名曲、怒りの葡萄やイージーライダーなどの映画でご存じだと思います。シカゴからサンタモニカまで8つの州を跨ぎ、黄金州カリフォルニアへの米国民大移動のメインルート「マザーロード」でした。コモアにも筆者を含めてこの道路のファンは多いと思いますが、今回ご紹介するのは強い憧れで玄関前にサボテン庭園を作られた若いご夫婦のお庭です。

このお宅は駐車場から玄関まで2M程の高低差がありますが、その階段脇に大きなバレルやチョラ、そしてアガベやユッカなどの砂漠植物が植えられています。アプローチ横の小さなスペースですが、赤茶色の礫を組み上げて、アリゾナやモハベの岩漠風景を上手に表現しています。



階段アプローチに西部の荒野が出現！



存在感充分のアガベ(左)とバレル

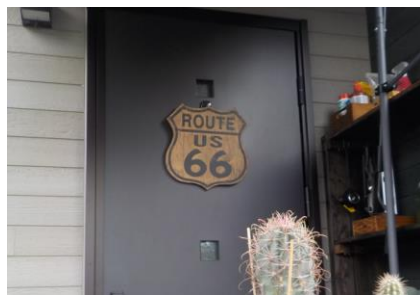


こちらはパイプオルガン

そしてこのアプローチ庭園が魅力的なのは、単に珍しくて大きなサイズのサボテンや多肉植物が植えられているからではなく、様々なアメリカンな小物類で飾られ、アプローチ全てが「ルート66らしさ」「西部らしさ」を醸し出しているところでしょうか。「WARNING」や「DANGER」のサインは勿論、取り付けている頑丈なネットフェンスもいかにもアメリカっぽい無骨さで「大西部」そのもののなのです。



様々なサインボードが玄関を飾ります



もちろん！玄関ドアには「ROUTE66」のサイン！

制作者様にお話を伺ったところ、寒さに弱いサボテンは温度管理が大変で、冬には温室へ入れているとのことでした。これだけの熱意の源は何かを伺うと、写真や映画で見たルート66の「時間が止まったかのような雰囲気」に惹かれたのだそうです。1985年に使命を終えたこの道は、効率や最短距離ではなく寄り道や出会いを通して古き良きアメリカの歴史を懐かしむ道であり、そんなところに憧れている。いつかは訪れてみたいと夢を語ってくれました。夢が叶って大西部をドライブできると良いですね。

一口に庭造りと言っても、その背景はさまざまですね。自分の夢や憧れを表現していく「小さなジオラマ」、皆さんも造ってみては如何ですか？

コモア ライフスタイル カタログは、仲間・庭・趣味・風景・その他のコモアしおつ住民の共通する話題をピックアップすることで、住民間の意見交換を活性化し、魅力的な街を再生することを目指すツールです。年数回不定期に発行し、コモア内に掲示・回覧すると共に、ウェブ「コモアの風」へのアップを行います。ご興味のある方、ご意見のある方は街並み保全実行委員会編集担当[clsc.editorial@gmail.com]までお知らせください。